

旧山崎家住宅と六調子大元神楽を活かした都市と農村の交流

邑南町立日貫公民館

1 日貫公民館の概要

日貫地区は邑南町の西に位置し、西は浜田市、北は江津市に隣接している。人口は549人、世帯数は216戸の四方を山に囲まれた地域である。

現在の公民館は平成4年に建設され、事務室のほか、体育館、研修室、調理実習室、和室を備えており、地区内の色々な団体がスポーツや趣味に利用している。

また、地域には「日貫地区活性化協議会」という団体があり、以前より協力して行事を行ってきている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

高齢化が進む地区であるが、地元には庄屋屋敷「旧山崎家住宅(屋号 隅屋)」があり、人口500人あまりのところに石見神楽の源流である「六調子大元神楽」を伝承する神楽団が五社中活動しているという、非常に神楽の盛んな地区でもある。また、平成23年末に地区の中心部に既存の建物を改装した、加工施設がオープンし、新たな特産品の開発や、郷土料理の提供も出来る体制が整ってきた。そこで、公民館と日貫地区活性化協議会が協力して、地域にある資産を活かしたイベントを実施し、都市と農村の交流を行うことにより、交流人口の増加や、地域の活性化を図る。

(2) 具体的な取組

ア 旧山崎邸を使用した夜神楽の上演

「座敷神楽とひぬいのごつつおうIN 隅屋」と名付けて、旧山崎邸を使った夜神楽の上演を10月から11月にかけて土曜日の夜開催。

(ア) 10月20日、27日。11月3日、10日、24日の5日で行った。地区内の五社中が1回ずつ担当。限定20名として、ポスター・新聞・テレビ・ラジオ等で宣伝。また、春に行ったイベント(夜桜まつりと長浜人形展)や、毎年行っている神楽フェスティバルに来場された方にダイレクトメールを送り案内した。

(イ) 当日は公民館職員と、活性化協議会の下部組織であるひぬいプロジェクトのメンバーで手分けして来客の対応にあたった。

また、旧山崎邸のライトアップ、駐車場から会場までの桜並木に提灯を取り付け、来場者が歩きやすいよう工夫した。

(ウ) 加工場を使い、祭りの日などに出されていた郷土料理を作り、来客に提供した。また、当日山崎邸で加工品の販売も行った。



旧山崎家住宅



神楽の打ち合わせ



料理の打ち合わせ



舞台と観客席



当日出された郷土料理



「神武」



「磐戸」

イ 邑南町子ども神楽共演大会（11月17日）

邑南町内にある神楽団の内、子どもが神楽を習っている神楽団が集まり、練習の成果を披露する大会で、今年の日貫地区が担当会場になった。翌日が当地区で行っている神楽フェスティバルということもあり、各神楽団や公民館職員、プロジェクトのメンバーで会場の設営、準備を行った。



「潮払」



「紅葉狩」



「弓八幡」



「八咫（八岐の大蛇）」

ウ 大元神楽フェスティバル（11月18日）

今年で19回を迎え、日貫地区の五社中と、近隣の六調子大元神楽を伝承している神楽社中を招待し、午前10時より8演目が上演された。

(ア) 近年、来場者が横ばい状態であるため、ポスター掲示・チラシ配布（邑智郡内、江津市、浜田市、北広島町）、新聞掲載（山陰中央新報・中国新聞）、ダイレクトメール等で来場者の増加を図った。

(イ) 加工グループや地元自治会、グループによるバザーを行い、地元産の材料を使った食べ物を提供した。



ポスターの掲示



地元産の食材を使ったバザー



上演風景

エ 日貫お宝マップの作成

日貫地区は、旧山崎家住宅を始め、芋殿さんとして慕われた井戸平左衛門正明の公德碑や、相撲が盛んだったので相撲取りの碑などの石碑、またお地藏さん、滝の観音など、お宝がたくさんある。日貫小学校の児童が、ふるさと学習として地域の人に説明してもらったり、自分たちで調べたお宝を地図に載せ、併せて日貫までの案内経路や神楽などの年間行事を載せた日貫お宝マップを作成したりする。

3 事業の成果と課題

(1) 旧山崎邸を使った座敷神楽については、各回20名限定としていたが申し込みが多く、毎回定員を超え、延べ124名の来場者であった。来場者の内訳は、県外からの来場者が59名、県内の市部から28名で、県外来場者は広島県、奈良県、大阪府、山口県、兵庫県、大分県と各地から来場された。また、当日は山崎邸で加工品の販売も行い、5日間で5万円あまりの売り上げとなった。当日の来場者にアンケートを実施したが、神楽、料理、雰囲気とも評判が良く、6割の方がまた来たいとの答えであった。

課題としては、遅くなると寒くなるため、開催時期の検討をする必要があること。演目と演目数の検討、食事について量や値段の検討が必要であり、加工品の販売についても売り上げ増になるような品目、種類を考えていかなければならない。

今回、来場者をお願いをして住所やメールアドレスを記入してもらった。これを基に、今後行う年間のイベントの案内をし、何回も日貫に来てもらう、こちらからも出かけていける、そんな関係を作り上げていきたい。

(2) 子ども神楽については、次年度は日貫地区での開催ではないが、地元神楽団での練習を行い、伝承に努めていく事が大事なことと思う。

(3) 大元神楽フェスティバルについては、昨年につきポスターやチラシの配布を行った成果が出て、例年より3～4割増しの来場者数であった。今後もこの来場者数を維持し増やしていくためには、地道な宣伝が必要であると思う。

また、当日の会場でのバザーについても地元の野菜など、地元産の物を売っていくことを考えていきたい。

(4) 日貫お宝マップは、町内各公民館や役場、道の駅などに置き、来客数のアップにつなげたい。

4 今後の方向性

地域に根付いている神楽の伝承や特産品の開発、ふるさとの魅力の再発見など、公民館と地域、小学校が一体となった取組を行い、地区外の人にひぬい応援団員となってもらい、交流人口の増加やIターン、Uターン者を増やし、高齢化しても元気な日貫をめざしていきたい。